

協定校留学【終了】報告書

※現地の様子や大学の風景、ご友人との写真を添付して頂けると大変参考になります。ご協力ください。

※帰国後2週間以内に提出(送信)してください。

※津田塾大学海外留学(派遣・受入)奨学金受給者はこの報告書をもって奨学金受給者報告書とします。

留学先大学	エディンバラ大学	氏名	
国名	英国	学籍番号	
留学期間	2025 年 9 月 ~ 2026 年 5 月	記入年月日	2026 年 6 月 16 日

1	履修したすべての科目についてお書きください			
	主な専攻分野: 言語学			
	科目名	LEL2A: Linguistic Theory and the Structure of English – LASC08017 (SEM1)	科目名	Linguistics and English Language 1A – LASC08022 (SEM1)
	授業内容	phonology, syntax, semanticsのintroductionの授業。Lectureで新しい知識を学んで、tutorialで実際に言語データを用いて演習を行った。	授業内容	1年生向けの授業。英語史、syntax、morphology、acquisition、phonetics、phonologyといった言語学の様々な分野の入門の授業。
	授業形式	lecture(週3)、tutorial(週1)	授業形式	lecture(週3)、tutorial(週1)、quiz seminar(週2)
	単位数	20	単位数	20
	サイズ	lectureは100人程度、tutorialは10人程度	サイズ	lectureは200人程度、tutorialは10人程度
	難易度 Course No.	level 8	難易度 Course No.	level 7
	宿題の量	midterm(2000words)、weekly quiz、final essay	宿題の量	midterm、weekly language puzzle、final essay
	コメント	言語学専攻の2年生向けの授業で、1年生向けのLEL1Aを履修した前提で授業が進みました。基礎の授業とはいえphonologyやsemantics未経験の私にとっては難易度が高い科目でした。週3回のlectureは一回一回の授業が濃く、ペースも早かったので、ついていくのが大変でしたが、phonologyという自分の興味のある学問を見つけることができました。	コメント	1年生向けの授業ということもあり、授業の難易度はLEL2Aほどではありませんでした。津田の英語学概論のような位置付けの授業でした。毎週language puzzleの課題があり、言語学オリンピックの問題を毎週解くもので、個人的に楽しかったです。Essayも1年生向けだからか、フォーマットが指定されており、取り組みやすかったです。
	科目名	Foundation German Language 1 – ELCG07009	科目名	LEL2C: English in Time and Space – LASC08019
	授業内容	ドイツ語入門のクラス。ドイツ語を全く学習することがない人向け。Speakingを中心とした授業で、ペアワークが多め。	授業内容	Old EnglishからPresent-Day Englishまでをgrammarやsociolinguisticsの立場から勉強する授業。English Variationについても学ぶ。
	授業形式	lecture(週2、各2コマ)	授業形式	lecture(週3)、tutorial(週1)
	単位数	20	単位数	20
	サイズ	20人程度	サイズ	lectureは100人程度、tutorialは10人程度
	難易度 Course No.	level 7	難易度 Course No.	level 8
	宿題の量	in class examとonline exam多め。Final examあり	宿題の量	midterm(2000words)、final exam(2 hours)
	コメント	楽しい授業でした。言語学とは違う授業を履修しようと思ってとった授業でしたが、生徒思いの優しい先生と、かけがえのない友人たちに恵まれ、毎回の授業が楽しみでした。Online testやgrammar testが大変だったものの、final examの一つである、15分程度のspeaking testを乗り越えたり、旅行でドイツ語圏に行った際には少し話せるレベルまで伸ばすことができました。	コメント	学ぶこと全てが新しい内容だったので、毎回の授業で新たな発見がありました。実際にOld EnglishやMiddle Englishで書かれた資料を分析する課題が多く、理解するのに苦労しましたが、英語が歴史の中でどう変化していったかを学べる楽しい授業でした。Final examでは2時間の中で3つのessayを書く内容でしたが、授業内容をしっかり復習すれば対応できる問題でした。

科目名	.LEL2D: Cross-linguistic Variation: Limits and Theories – LASC08020	科目名	Introduction to Gaelic Language and Culture – CELT08017
授業内容	typologyの授業。世界中の言語データを扱い、主にphonology、morphosyntax、first language acquisitionの立場から言語分析を行う授業。	授業内容	Scottish Gaelicの言語とスコットランドの歴史、文化について学ぶ授業。
授業形式	lecture(週3)、tutorial(週1)	授業形式	language(週2)、culture(週1)、tutorial(隔週)
単位数	20	単位数	20
サイズ	lectureは100人程度、tutorialは10人程度□	サイズ	languageは10人、cultureは40人、tutorialは5人
難易度 Course No.	level 8	難易度 Course No.	level 8
宿題の量	midterm essayとfinal essay(各2000words)	宿題の量	予習多、online exam×3、final essay、examあり
コメント	全授業の中で一番大変で、一番楽しかった授業でした。LEL2Aでの学びがより深くなり、扱う言語データの難易度が格段に上がったので、ついていくのが大変でした。私は課題をやる中で一人で分析を行う限界に直面したので、迷ったらすぐに友人や先生を頼ることをお勧めします。ですが、この授業を通して理論言語学の基本である批判的思考が養われたと実感しています。	コメント	言語と文化どちらも学べるのが面白かったです。言語の授業では10人程度の少人数で行われ、先生も一人一人の名前を覚えてくれて、アットホームな雰囲気でした。文化や歴史の授業は知らない固有名詞が多く、理解するのに苦労しましたが、エディンバラにいるからこそ学べるが多かったので、履修してよかったです。
科目名		科目名	
授業内容		授業内容	
授業形式		授業形式	
単位数		単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.		難易度 Course No.	
宿題の量		宿題の量	
コメント		コメント	
科目名		科目名	
授業内容		授業内容	
授業形式		授業形式	
単位数		単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.		難易度 Course No.	
宿題の量		宿題の量	
コメント		コメント	

2	授業において困ったこと、その解決法について教えてください
	最初の方は授業のスピードだけでなく、英語のスピードに圧倒されました。授業内容を理解する以前に、英語で何を言っているか理解できない状況にあったので、授業後は必ず授業録画を何回も見るようにしていました。また、1から新しいことを英語で学ぶので、授業前には事前に配布される授業資料を一通り目を通して、わからない専門用語やロジックを洗い出すことを心がけていました。また、tutorialでは、ネイティブの学生に混ざってペアワークやディスカッションをする必要があり、最初のうちは全く参加できずに終わることもありました。なので、各tutorialで何か一回は発言することを心がけると、演習の中で一番自信がありそうな問題を選び、その問題に関してはディスカッションに貢献できるように頑張りました。また、essayをやる中で、クラスメイトを見ていると、一人でやるよりも、クラスメイトと協力して行う傾向にあると思いました。私自身も友人に何度も助けられました。
3	授業以外の活動についてお書きください
	授業以外では課題をやることと、societyの活動に参加していました。空きコマや授業終わりは友人とTeviot(student associationの建物)で勉強したり、一人の時はMain LibraryやLaw Library、George Square 40のStudyHubで勉強していました。特にLaw Libraryはお気に入り、土日やessay weekの時に通っていました。SocietyはYoga societyとTandem(Language Exchange)、たまにJapan Societyに参加しました。休日やflexible week(6週目の授業がない週)には友人と日帰りで旅行へ行ったり、一人でエディンバラの街を歩いたりするなど、なるべく外に出て活動することを心がけました。また、SEM2では、日本語学科のTAボランティアとして活動し、先生のもとで発音の指導などを行っていました。
4	寮(またはアパート、フラット)の生活について教えてください
	寮(またはアパート、フラット)名とその場所
	university accommodationのShrubhillに住んでいました。New TownのLeith Walkに位置し、George Squareからバスで15分、徒歩で30分の場所です。
	設備についての簡単な説明
	わたしの住んでいたShrubhillは自炊寮でした。寮の一階にSainsbury's Localというスーパーや徒歩30秒のところにアジアスーパーがあったので、自炊には困らない場所だと思います。寮を選択する際にshared bathroomかEn-suiteと呼ばれる自分のバスルームがある部屋を選べます。Shrubhillは全ての部屋がEn-Suiteで、キッチンなどの共用スペース以外は自分で掃除をする必要がありました。(寮によっては自室の掃除付きもある)
	部屋について
	1 部屋 広さ 6 畳くらい
	ルームメートについて
	Shrubhillでは一つのキッチンで5人のフラットメイトと共有していました。SEM1とSEM2でフラットメイトが全員入れ替わりました。SEM1はスコットランド人、中国人、アメリカ人、ノルウェー人と住んでいましたが、パーティーを頻繁にしたり、夜うるさい人が多く、うまくやっていくのに苦労しました。SEM2はジャマイカ人、台湾人、フィンランド人、スコットランド人と生活しましたが、皆いい人で気持ちよく過ごせました。台湾のフラットメイトとは旅行に行くなど、かけがえのない友人になりました。
	寝具や生活用品の入手方法
	寝具や生活用品はIKEAやAmazon Prime Studentに加入して揃えました。私はほとんどを実費で揃えましたが、イギリスではcharity shopやdonation文化が発達しているので、全て自分で買わなくても良かったと留学後半で気がつきました。私の寮では学期始めにdonation spotが開設され、必要な生活用品(キッチン用品やハンガーなど)を好きなだけ持っていくことができたので、寮やその周りを確認してみるのをお勧めします。
	生活の感想
	学生の街ということもあって生活に困ることはありませんでした。生活に必要なものは全て徒歩圏内にあったのでとても便利でした。アジアの学生も多いので、アジアスーパーには日本の調味料やインスタント麺、お菓子などほとんど必要なものは揃っていて、自炊するにも困りませんでした。また、日本食や中華料理など食べ慣れた味のレストランもたくさんあったので、食事面で寂しい思いをすることはありませんでした。エディンバラの街はCalton HillやArthur's Seat、Pentland Hill、Water of Leithといった自然が溢れ、空気が綺麗な場所が数多くあり、歩くだけで楽しかったので、日本にいた時よりも健康的になったような気がします。
5	食事についてコメントを書いてください
	自炊をする分には全く困らないと思います。野菜や果物、乳製品は日本と同じか、それよりも安く手に入る場合が多いです。ただ、外食をする場合は日本と比べ物にならないくらい高いので、頻繁にはできませんでした。外食をすると最低でも一食£15はかかるので、よほど疲れた時か何かお祝いする時に絞っていました。イギリス料理はあまり美味しくない、という情報を渡航前よく耳にしていたのですが、私は美味しくないと思ったことは一度もありませんでした。ロースト料理やグリル料理が基本で、味付けはとてもシンプルですが、卓上にある調味料で自分でカスタマイズして食べれるので、自分に合った味が楽しめると思います。特にローストポテトが気に入り、寮のオープンで自分でよく作って食べていました。

6	医療保険についてお書きください	
	渡航前に加入した保険	
	NHS(イギリスの国民保健)、OSSMA	
	留学先大学にあった医療保険制度	
	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)	
NHS経由で医療を受けたことはありませんが、風邪を引いた際に日本から持ってきた薬が全く効かなかったため、スーパーに売っている市販のLemsipや飴を購入して対処していました。		
7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)	
	(現地通貨)	
	渡航旅費	300,000(往復) 円
	帰国旅費	円
	引越(往復で)	30000(Parcel Forceの郵便) 円
	保険	£776(NHS) 125,300(OSSMA) 円
	語学研修費	なし 円
	留学先学費	£24,000 円
	本学学費	200,000 円
	教材費	£73 円
	住居費	£8,750 円
	食費	395,000 円
	その他(交際費)	655,000 円
	()	円
	()	円
合計	7,620,300 円	
換算率 (£1 = 200~212 円)		
受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください		
業務スーパー奨学金(給付)		
8	留学前の準備について教えてください	
	日本から持参すべきもの	
	生活面では、生理用品、常備薬、スキンケア系(保湿力が高いもの)、サランラップ(イギリス製はあまり粘着性がない)、洗濯バサミ付きの物干しハンガー、ローラークリーナー(寮の床がカーペットだったので、粘着テープ付きのものが重宝した)、変換プラグ、海外対応のドライヤー(日本から持っていったが、電圧を変えるのを忘れて初日に故障した)、使い慣れたシャーペンの芯や予備の消しゴム、イヤリング(イギリスで売っているイヤリングは全てピアス型)、スリッパ(部屋で履くもの。冬場は足元がすごく冷える)。食事面では、インスタント商品全般(ラーメンやカップスープなど。韓国ラーメンはどのアジアスーパーでも見つけたが、日本のラーメンを見つけるのは難しかった)、梅干し(体調が悪く、食欲がない時に食べていた)、寿司巻き(海苔巻きを友人に作ったところ、とても好評だった)。	
留学前にしておけばよかったこと		
英語力、特にリスニングとスピーキングは伸ばせるだけ伸ばしてから渡航するのが楽だと思います。特にリスニングは、私の場合BBCやIELTSといったアナウンサーのような聞き取りやすい英語を中心に勉強していたので、いざ留学して生の英語に触れた時に全く聞き取れないことが何度もありました。なので、BBC等で基礎を固めた上で、より日常に近い英語に耳を慣れさせておけばよかったと思っています。スピーキングに関しても、日常的に使う表現を全然知らないことに気がついたので、カジュアルな英語とアカデミックな英語をバランスよく勉強するべきだったと感じています。		

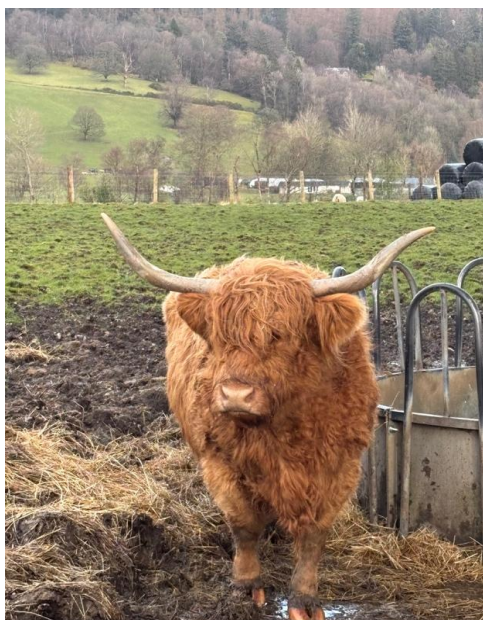
9	適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください 学習面では、日本と違い成績がessayまたはexamのみで決まるので(例えばessayとexamが50%ずつなど)平常点がありません。なので、一回一回のessayやexamの比重が重く、課題の時期になると「もしこのessayの成績が悪かったら、、、」などとプレッシャーを感じる事が多々ありました。ですが、解答が間違っていたとしても、解答に一貫性があったり、自分なりにしっかり考えた、というのが先生側に伝われば、それを踏んで点数をもらうことができるので、とりあえず自分のベストを尽くして、ロジックが逸脱しないように解答するのを心がけました。生活面に関しては、イギリス特有の天気と日照時間に慣れるのが難しかったです。夏場や10月の終わりくらいまでは夜9時くらいまで明るく、太陽が出ている時間も長いので、体調を崩すことは少なかったです。ですが、冬場(11月下旬～2月下旬)になると午後3時前後には日が沈み、毎日曇りか雨で、1日太陽が全く出ない日もあったので、精神的にダウンしてしまうことが多かったです。個人的に1月が一番きつかったです。
10	留学の成果(学習面・精神面)を教えてください 学習面、精神面共に成長したと思います。私自身初めての一人暮らしだったので最初が一人で生きていけるか不安でしたが、自分で全てやらないといけない環境に身を置いたことで、自分でできることが増え、自信がつくようになりました。一人で海外旅行に行ったり、一人で散歩に出かけたり、精神的に自立したと実感しました。学習面に関しては、留学を通して自分がやりたい学問分野を見つけることができました。留学中に実感したのが、リスニングでインプットを大量に行うと(授業や友人との会話)、自然とその中でどういう表現や文法が使われやすいかわかるようになるので、スピーキングのときのボキャブラリーも自然と増えたように思います。学んだ内容のほぼ全てが新しい内容で、最初は全くついていけない状況が続きましたが、最終的には専門用語や授業についていけるまで成長しました。留学前は、「自分から声を上げる」ことが苦手でしたが、エディンバラへ行ったことで、わからない問題や参考文献、進路相談など、自分から積極的に教授や友人に助けを求めることができるようになり、自分から行動する力がついたように思います。
11	今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください 今年いっぱいには卒業論文の執筆、大学院の出願、インターンを行う予定です。卒業後は言語学で海外の修士課程へ進学することを目指しています。
12	留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします もし留学するかどうか迷っているなら、ぜひ勇気を出して踏み出してみることをお勧めします。私自身留学前は初めての一人暮らしに加えて、自分の英語力や異文化適応力、経済力など、さまざまな点で不安を抱えていましたが、実際に現地へ飛び出してみると意外と自分一人でも生きていけるということがわかりました。一人で散歩をしたりバスに乗ったり、スーパーに一人で買い出しに行ったりするような日常のことから、英語で授業を受けてディスカッションをしたり、一人で旅行に行ったりというようなスケールの大きい経験をする中で得た自信は、毎日少しずつ蓄積されていくと思います。留学最終日に寮を出るときには、その自信がハッキリと自分の成長として実感できて、留学前とは全く違う自分に出会えるはず。留学はキラキラしていることはほとんどなく、毎日何かしらの問題を抱えて、泥臭くこなしていくことの方が多いと思いますが、必ず留学での経験が皆さんの将来の可能性を広げてくれると自信を持って言えます。エディンバラ大学だけでなく、イギリスへの留学を考えている方がもしいたらっしゃれば、ぜひお気軽にご連絡ください。留学が決まるまで不安な日が続くと思いますが、行きたい大学で授業を受けて、勉強している姿を想像しながら、頑張ってください。応援しています！！
13	その他、ご自由に意見を書き込んでください エディンバラでは22歳になる誕生日まで交通機関(バス、トラム)が全て無料で使うことができます。それにはYoung Scots Cardという写真付きのカードを申請する必要があるのですが、学生証を取得したタイミングですぐ申請することをお勧めします。このカードがあることでEdinburgh Castleに£1で入れたり、スコットランド内の観光地で割引を受けることができます。また、エディンバラ含めスコットランドは風がとてつもなく強く、傘は使い物にならないので、風を通さないズボンや雨風に強い上着(フード付き)を持ってくると良いと思います。

写真を数枚添付していただけると幸いです。(キャプションをつけてください。)

Stonehaven
Dunnottar Castle

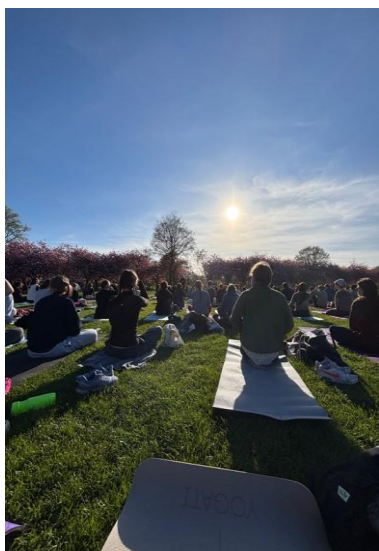


highland cow



The Isle of Skye
The Old Man of Storr

The Meadows
でYoga!!



HogmanayのTorchlight Procession



The Meadowsの桜  